

第6回 内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用に関する連絡協議会 議事要旨

日 時：2025年12月25日（木）13:30-15:00

場 所：鉄道・運輸機構 20階第2会議室（Web会議併用）

参加者：日本内航海運組合総連合会、一般社団法人日本旅客船協会、全国油脂事業協同組合連合会、
一般社団法人日本船用工業会、鉄道・運輸機構（事務局）、国土交通省、
豊田通商株式会社、株式会社ダイセキ環境ソリューション、
国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所

議題1 協議会参加者からの関連情報の提供

◆海事局海洋・環境政策課より資料（投影のみ）に基づき次のように説明。

- バイオ燃料のバンカーを考慮するためのIMOでの議論を受けて、油タンカーでバンカー可能な基準をB25からB30へ引き上げる緩和措置を講じた。
- 異なる原料由来のバイオ燃料を混合した際の影響やバイオ燃料の原料の拡大（バイオエタノール）等について調査するべくR8年度予算にて要求中。

◆事務局より資料1-1に基づき次のように説明。

- 今年度のJRTTの技術調査において、バイオ燃料の潤滑特性を把握するために、摩擦試験機を用いた調査を実施中であり、来年度のSea Japanで報告予定。

◆豊田通商より資料1-2に基づき次のように説明。

- 現在実施中の環境省補助事業（R7-8年度）において、船舶から発生した廃食油由来の高濃度バイオ燃料を船舶で使用する実証を進めており、今年度は主に全体ロジ構築等を実施している。

◆全国油脂事業協同組合連合会より資料1-3に基づき次のように説明。

- 官民における議論の現状、廃食油の国内需給、SAFの需給状況は不透明（国内生産量も明らかになっていない）、輸出用は増加傾向、海外需要等を受け国内の飲食店等向け廃食油買取価格が上昇傾向等について報告。
- 現状の課題は、圧倒的供給量不足、現状打開を模索すべく次のような事業を実施中。
- 令和7年度環境省補助事業において、飲食店グリストラップ廃油の燃料化を調査中。
- インドネシアにおける廃食油の活用について、東京都環境公社委託事業として令和7年度から実施中（3-7か年事業、グローバルサウスGX促進プロジェクト）。
- 引き続き、様々な場で、航空用だけでなく船舶も需要先である旨言及していきたい。

◆主な意見コメントは次のとおり。

- バイオ燃料を使用した際に発生するスラッジの性状（C重油由来かバイオ燃料由来か）に関心がある。⇒ご参考、パーム油を燃焼するような陸上用の機関では、ガム状成分対策として、機関停止前に従来燃料でフラッシングするというオペレーションを実施している。

議題2 連絡協議会事業の成果発表セミナーについて

◆事務局より資料 2-1 に基づき次のように説明。

○本協議会の 3 か年の集大成としてセミナーを実施することとした。会場等については内航総連にご協力いただいた。

議題 3 来年度以降の事業計画について

◆事務局より資料 3-1 に基づき次のように説明。

○3 か年の計画で設置された本評議会は、今年度末で終了のタイミングとなるが、予定通り今年度で終了すべきという意見はないと承知しており、次年度以降も引き続き体制を維持し、議論等の場を設ける方針としたい。

○これを受け、参加規約については、事務局にて改正案を作成する。この際、SDGs 表彰の規定等の現状実績がなかったものは見直す。幅広い議論が可能な場を目指しつつ、極端に門戸を広げすぎないような書きぶりとする予定。

議題 4 その他

※特にコメントなし。

次回の連絡協議会

◆2026 年 3 月 17 日（セミナー開催日）午前の開催することとした。

（以上）